



表紙写真/竹富島の夜

CONTENTS

ご覧になれます。

- 1 **くがにくとつば**[黄金言葉] vol.127
「育つ陶器の楽園」
壺屋焼窯元 育陶園 六代目窯主 伝統工芸士 高江洲 忠
- 4 **おきぎんマーケティングレポート**
第57回おきぎん企業動向調査
(2014年7～9月期) 調査結果
～県内(地域・業種別)の経営環境と業況感(2014年10～12月期見通し)～
- 12 **地域リレーションシップ情報**⑱
沖縄総合事務局経済産業部の最近の取組について
製造業を対象とした
「平成26年度第2回沖縄力発見ツアー」を実施
- 14 **けいざい風水**
- 16 **最近の県内経済の動向**
2014年7月の県内景況
- 18 **国内景気動向**
- 20 **沖縄マーケティング情報**
①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数
②世界の中の沖縄(年次)
③グラフでみる沖縄経済
④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)
- 40 **経済社会のできごと**(沖縄、国内・海外)
2014年8月
- 42 **おきぎん調査レポート・バックナンバー**(分野別)
- 46 **ゆがふ編集後記**

おきぎんカトレアクラブ会員の皆様へは「おきぎん調査月報」をインターネットでも公表しております。

<https://cattleya.okinawa-bank.co.jp/index.jsp>

※「おきぎん店舗一覧」につきましては、沖縄銀行ホームページをご参照下さい。

「育つ陶器の楽園」

壺屋焼窯元 育陶園

六代目窯主 伝統工芸士 高江洲 忠



壺屋焼300年の伝統。そのよさをよく見つめ、受け継ぎ、育てている、育陶園六代目窯主 伝統工芸士 高江洲先生にお話を伺って参りました。

「荒焼」がルーツ

壺屋焼の技術・技法は沢山ありますが、大きく分けると、釉薬（うわぐすり）を使う「上焼（じょうやち）」と使わない「荒焼（あらやち）」とに分かれます。四代目までは「荒焼」を専門とし、水甕、酒甕、味噌甕等の大型の器作りが中心でした。これが育陶園のルーツです。

五代目から「上焼」となり、シーサーと泡盛の酒壺作りの傍ら、茶碗も作るようになり、私が六代目を引き継いだ頃からは徐々に日用雑器に変えてきました。

本土からの安価な陶器製品の流入、ステンレス化など、時代の移り変わりとともに、より日常の生活に適した器を作るようになりました。

壺屋焼の伝統技法である「線彫り」をメインにした器づくりを行っています。

すべてのデザインを、一つ一つ下絵なしで仕上げていくため、失敗が許されない技法です。この技法を身につけるまでには、修練の日々が続きました。



▲伝統技法「線彫り」

「沖縄らしさ」にこだわる

高校を卒業して陶芸を学ぶために、愛知県の瀬戸にある窯業訓練校に通いました。沖縄とは違って機械が導入され産業化が進んでおり、新鮮で刺激あるものでした。

本土のろくろは右回転ですが、沖縄のろくろは300年間、左回転であり、私だけが反回転でした。

卒業後、愛知県在住の陶芸作家 鈴木五郎師に師事しました。師は常に進化を求め、最上の質へのこだわりは他の追随を許さないもので、初めて「作家」と「職人」の違いを感じました。

その後、栃木で益子焼きを修行する予定でしたが、急遽、父が足を悪くしたため、沖縄に戻るようになりました。

戻ったばかりは内地かぶれしていたのでしょうか、壺屋焼の昔ながらの手法や、酒壺作りの日々が本当に嫌でした。そこで、いかに速く、美しく作れるかを目標に酒壺作りに没頭しました。結局、毎日夜遅くまで作ることにになり、今では、上手くできなかったことが懐かしく思えます。

29歳の時に、壺屋陶器組合よりアメリカバージニア州での陶芸指導と作品展への派遣の話があり、渡米し2ヶ月間ほど滞在しました。

そこで、なぜ、「龍」や「シーサー」を作るのかうまく答えられず、ウチナーンチュなのに本当に沖縄の事をなにも知らないのだと痛感させられました。

それから「沖縄」、「沖縄らしさ」にこだわるようになりました。いい体験でした。

「壺屋焼」300年の長い歴史はアメリカの建国よりも長いのです。

育陶園では、「壺屋焼」という伝統だけでなく、「沖縄」という伝統も大切にしています。そして、形やデザインは現代風にアレンジさせています。工房とお店が近いこともあり、お客様のお声を反映させながら、進化させていけるのがいいのかもしれません。

熟練を超越して

県外、海外での経験を活かした、しなやかな発想で、伝統や技術を受け継ぎつつも、常に新しいことに取り組んでいます。同時に「手でつくる技術を残したい」、「ものを創る喜び・幸せを感じられる環境をつくっていきたい」という想いで、若い職人やスタッフの育成にも力を入れています。現在、15人の職人がいて、平均年齢は43歳です。

一つの技法・技術を継承するには最低でも3年～5年は掛かりますが、育陶園では「見て覚えろ」ではなく、若い職人が要領よく仕事ができるよう、全職人で考えながら教え合います。

基本となる技法・技術はしっかり継承し熟練に励まさせています。基本を守り、それを踏まえることで自分の個性が出せるようになります。人間国宝と呼ばれる人の大半は無名の作家であり、熟練を超越した職人です。

目指しているのは「育つ陶器の楽園」

育陶園が大事にしているのは、いつも開かれた明るさがあり、そして、職人、スタッフ、また私の家族とがしっかり繋がった和気あいあいとした雰囲気です。私の家族も職人、スタッフとして働いています。

毎朝、皆で掃除して全員ミーティングを行ないます。日々の売り上げや在庫、売れ筋商品、お客様のご意見、新商品の開発、時には資金繰りについて、職人もいっしょになって議論しています。皆が経営に参加することにより、経営自体がクリーンとなって、皆が生き生きとし、職人は安心して、いい作品を作ることができます。



▲全員ミーティングの様子

また、週に1度は、私の妻がお昼ご飯を作り、私を含め職人、売り場のスタッフも、いっしょにユンタクしながら食べます。皆で同じ釜の飯を色とりどりの器で食べると格別に美味しくなります。



▲週に一度の食事会の様子

育陶園は、精神的にも、物質的にも満たされて、日々を健康に充実して過ごすことのできる職場であり、「仕事が楽しい！自分の仕事が誇らしい！」と、もっとそう思えるよう、皆で歩んでいきたいと思っています。

目指しているのは「育つ陶器の楽園」です。



▲「育陶園」窯主と職人・スタッフ

【陶歴】

昭和47年	愛知県窯業訓練校卒業
昭和53年	陶芸作家 鈴木五郎師に師事
昭和61年	那覇市伝統工芸品展、那覇市長賞
平成6年5月	アメリカバージニア州陶芸指導
平成13年7月	沖縄サミット晩餐会に焼締茶碗を製作
平成14年2月	伝統工芸士の称号を受く
平成16年7月	那覇市観光功労賞
平成18年9月	現代沖縄陶芸展 県知事賞(金賞)受賞



300年の時をかけ
 受け継がれてきたもの
 受け継いでいくもの

壺屋焼
 育陶園

私たちの作る器や陶器は、沖縄の限られた場所で採取された土を使用しています。

職人の手によって一つ一つの形を作り、絵柄も彫刻刀や筆を使い
 一つ一つ下絵を書かずに表現していきます。



豊かな沖縄の自然と気候と、職人の手仕事が生み出す事で
 陶器に宿る個々の表情をお楽しみください。



有限会社育陶園

〒902-0065 沖縄県那覇市壺屋1-2-2-33 TEL 098-866-1635 HP:www.ikutouen.com

けいざい 風水

❖「中小企業白書」を読む 起業例を多数掲載

中小企業白書（2014年版）に掲載された「平成24年経済センサス活動調査」によると、日本企業の全体数は386万3,530社、そのうち中小企業数は385万2,934社で、実に99.7%を占めています。

沖縄県は企業全体数4万8,466社のうち中小企業数は4万8,405社で、構成比は99.9%とさらに高い割合となっています。

中小企業は、新たな産業や雇用機会の創出をはじめ、地域経済を活性化するために欠かせない存在です。しかしながらわが国の中小企業・小規模企業数は1986年以降、長期にわたって減少傾向にあり、今後の地域の活力低下が懸念されます。沖縄県は全国の中で開業率が高いものの、周到的な準備が不足したまま事業開始に至るケースも指摘されており、廃業率も高い水準で推移しています。

円滑な事業承継を進めることで廃業を減らすと同時に、起業を増やしていくことが不可欠です。行政は起業希望者に対し、創業者支援資金などさまざまな支援策を打ち出しており、今後は行政や地域金融機関などの幅広い紹介を通して、支援策の利用促進につなげていくことが望まれます。また起業希望者自身も多くの成功事例に触れるなど、積極的に情報収集し周到的な準備を進めていく姿勢が必要と思われます。中小企業白書には、さまざまなデータや政策のほか、成功事例紹介も多数掲載されています。起業希望者の方はぜひ一読してみたいはいかがでしょうか。

（沖縄銀行法人融資部 調査役 浦添 朝之）

中小企業数

	中小企業				大企業		合計	
			うち小規模企業					
	企業数	構成比	企業数	構成比	企業数	構成比	企業数	構成比
全国合計	3,852,934	99.7%	3,342,814	86.5%	10,596	0.3%	3,863,530	100.0%
沖縄県	48,405	99.9%	42,250	87.2%	61	0.1%	48,466	100.0%

資料：総務省・経済産業省「平成24年経済センサス・活動調査」再編加工

（平成26年6月29日掲載）

❖「混合診療」是か非か 突き付けられた課題

政府は成長戦略の一環として、規制・制度改革案について混合診療の拡大を提案しています。

その前提に国が提供する医療保険（公的保険）として、国民皆保険制度があります。この制度は、国が承認した治療法を保険診療として受けることができ、自己負担は約3割で済みます。一方で、未承認の治療については自由診療という形で受けることもできますが、検査や入院などにかかる費用など本来なら保険適用される部分まで自己負担となります（全額自己負担）。

混合診療は、保険適用されていない治療の受診について、一部が保険適用（3割負担）となり、結果的に受診者の負担額が軽減されるという仕組みで、現在は原則禁止の立場です。「海外などで既に認められた先進的な医療技術が受けやすくなり、患者の選択の幅が広がる」などのメリットが挙げられます。一方、「所得格差により受けられる医療に格差」「新薬や新しい治療について保険適用が制限され結果として負担が拡大する」「安全性・有効性が確認されない医療が提供される」などが懸念事項として指摘されています。

現状でも混合診療に類する制度がありますが、不十分との判断なのかもしれません。理想は現行制度の維持ですが、財源などの問題が付きまといます。この議論は、高齢化社会が進む中、社会保障制度の維持や税負担の在り方について国民全員に突き付けられている課題だと認識すべきです。

（おきぎん経済研究所 研究員 上地良平）

例えば…総額100万円の医療を受ける場合

【保険診療の場合】 【混合診療の例…未承認の先進技術を受けたい場合】

医療費100万円 (自己負担額) 100万円×30% =30万円 ※更に高額療養費 制度を使うと、自己 負担は1カ月約 9万円で済む ※受診者負担額以 外の部分は、徴取 された健康保険料 では足りず、税金 が使われている	先進的技術だ が未承認の技 術(治療) 40万円 現在は	100万 全額自己負担 検査や入院等 に係る費用も 3割負担にな らず、全額自 己負担となる 混合診療になると	未承認治療の 部分は自己負 担40万円 60公 万的 円保 険× 70% から 42万 円	額自己 負担 合計 40万 円 60万 円 18万 円
--	--	--	---	---

（平成26年7月6日掲載）

ゆがふ編集後記

まぢま〜い

読者の皆様は、那覇市観光協会が実施している「ガイドと歩く那覇まぢま〜い」をご存知でしょうか。タイトルの通り、ガイドの方（多くは地元のおじさんやおばさん（失礼））と一緒に、一時間から二時間ほどかけて、那覇市内の名所旧跡を始め、さまざまなテーマとともに街中めぐりをする「小旅行」形式の観光イベントです。2010年に始まった那覇まぢま〜いですが、那覇市の歴史に詳しいガイドさんが古地図や古い写真などを用いて、ローカルネタを交えながら参加者とわきあいあい巡り歩くスタイルが受け、いまでは年間約1万人（25年度）が参加する那覇市の重要な観光イベントに成長しつつあるようです。

先日、沖縄経済同友会の観光委員会のメンバーと、人気コースのひとつである「那覇市のまぢぐわー、迷宮めぐり」に参加しました。メンバーは本土からの駐在組（いわゆる、ないちゃー組）と、地元メンバー（いわゆる、うちなー組）半々の総勢20人で、那覇市の公設市場を中心とした界隈をぐるぐると巡るコースでした。まぢま〜いは、期待にたがわず、あっというまの一時間となりました。なにがおもしろい、といえば、日ごろ何気なく通っている場所（実はコースは弊社の近隣）が、ガイドさんの解説を通すと、まるで違った風景に見えてくるから不思議なものです。しかも参加した「ないちゃー組」もそうですが、「うちなー組」の評価がかなり高かった、というのは素直に驚きでした。改めて私たちは意外と、地元のことは知らない、知ればもっと日常が楽しくなる、ということを再発見できた日でもありました。

さて、沖縄の観光客は約80%近くがリピーターであるといわれています。リピーターが多い、ということは、それだけ沖縄の持つ魅力とポテンシャルが高い、ということですが、今後を考えると、一部のリピーターの声として、もう行くところがない、もう買うものもない、といった意見があることも気になるところです。

今、いわゆる「着地型観光」、そこで何をするのか、というテーマに、さまざまな取り組みがなされていますが、地元の間人がもっと地元を知れば、地域資源（史跡、歴史、文化、芸能など）の有効な活用方法は、無尽蔵にあるのでは、という気がしています。

今回、まぢま〜いに参加して、改めて思ったことは、もっと地元の歴史や伝統、文化を勉強して、「お国自慢」が出来、そして観光客や、子供たちに伝えられる大人になりたいな、ということでした。アナタ、既に遅きに失しているよ、とのご批判は承知しつつ。

最後に、那覇まぢま〜いは、実に多くのコースを揃えており、1,000円から参加できます。ちなみに、私個人的に今、一番気になっているコースは「寄んな〜酔んな〜桜坂（子供には伝えられそうもないが）、のコースです。近いうち参加したいと思っています。「ガイドと歩く那覇まぢま〜い」、ご興味のあるかたは、ホームページ（web.www.naha-machima-i.com）まで。

（株）おきぎん経済研究所 代表取締役社長 出村郁雄